

刈谷市 全域マップ



QRコードをお読みいただくと、刈谷の地図と周辺の史跡が表示されます。

一里山・一ツ木 いちりやま・ひとつぎ

三河三弘法の霊場である密蔵院(一里山)から、西福寺(一ツ木村)をつなぐ道は弘法道と呼ばれ、参拝客でにぎわいを見せていた。「一ツ木」の名前は、大師井にそびえていた大樹が刈谷城の鼓櫓門に用いられたとする伝説に由来する。

東海道 とうかいどう

慶長6年(1601)、関ヶ原の戦い後、徳川家康によって整備された江戸・日本橋から京都までの街道である。刈谷ではほぼ国道1号に沿っており、池鯉鮒宿と鳴海宿の間にある街道筋では休憩のための数件の茶屋が立ち並び、旅人が疲れを癒していた。

刈谷市歴史博物館

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1
TEL:0566-63-6100 FAX:0566-63-6108
<http://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>

2021.03



東海道 散策ルート

1 お富士松 【おふじまつ】

桶狭間の戦い後、敗走する今川勢に織田氏の間者と疑われ殺害された旅人を哀れんだ村人が葬り、松を植えたことに由来する。当初は今より南東に位置していたが、昭和34年伊勢湾台風で枯れ、現在の地に新たに植えられた。



お富士松

2 乗蓮寺 【じょうれんじ】

真宗大谷派。江戸前期の草創とされる。境内の樹齢850年のシイは、伊勢湾台風により幹の大部分に損害を受けたが、現在は回復して市の天然記念物に指定されている。



乗蓮寺 シイ

3 乗願寺 【じょうがんじ】

天正15年(1587)創建当時は浄土宗の地藏寺。享保15年(1730)に真宗に改め、乗願寺と名を変えた。刈谷藩主三浦明喬・西尾藩主土井利庸・その子で刈谷藩主の土井利信の位牌を祀っている。

4 いもかわうどん

浅井了意が著した江戸期の仮名草子「東海道名所記」には、「いも川 うどんのそば切あり」とあり、東海道の中でも随一に良い塩梅であると評されている。名古屋名物「きしめん」のルーツとする説もある。

5 洞隣寺 【とうりんじ】

天正8年(1580)に水野忠重の開基とされる曹洞宗の寺。境内には、帰国途上で刺し違えた豊前(現大分県)中津藩士の墓と、高津波にある医王寺の青年僧に片思いし恋焦がれるあまり絶食して命を絶ち、死後火玉となって「めったいくやしい」と叫んだ女の墓がある。

6 十王堂 【じゅうおうどう】

あの世で亡くなった人を裁く十人の王を祀るお堂。伊勢湾台風の際にはお堂が失われ、昭和38年(1963)に再建された。十王の他に近隣にあった石地藏もまどめられている。

7 今岡神明社

天正17年(1589)に水野家家臣とされる鈴木大之進により創建。江戸時代を通じて修築や再建が繰り返され、境内が整備された。末社に津島天王社、秋葉社などがある。特に秋葉社は氏子達からの崇敬が篤く、安政5年(1859)から毎年、秋葉山本宮に初穂料を納めた資料が現存している。

お問い合わせ